

気管支喘息についてお話します。

●気管支喘息とは

気管支喘息は発作性に起こる気道の狭窄によって、ゼーゼー（以下喘鳴）、息を吐く時間の延長、呼吸困難を繰り返す疾患です。その病態として、慢性的な気道炎症と気道過敏性が指摘されています。乳幼児期には感冒時に喘鳴を伴うことがあり、反復性で重症になる子どもは、小児喘息になっていく可能性があります。小児喘息のほとんどは、アトピー性皮膚炎の合併、吸入抗原による感作などのアレルギー体質が関連したアトピー性喘息です。60%は2歳、80%は3歳までに発症し、70%は治癒（のうち20%が再発）、30%は成人に持ち越します。

●発作時の対応

- ①ムブチン、ベネトリンなどの吸入、去痰薬の内服。改善しなければ病院へ。
- ②水分をしっかり取る。
- ③腹式呼吸と口すぼめ呼吸息を吐くときに口唇をすぼめながら、細くゆっくりと行う）

●軽アトピーと背中を叩いて、咳をさせ痰を出しやすくする。

- ④襟元を開けて楽な姿勢にし、クッションなどを背もたれにして座らせる。赤ちゃんは縦抱きにする。
- ⑤ゆっくり息を吐けば吸えるからねと声をかける。

●長期的な治療

ロイコトリエン受容体拮抗薬（キプレスシングレアやオノン）と吸入ステロイド薬（バルミコートやフルタイドなど）が中心です。乳幼児の軽症例では前者、6歳以上、中等症以上では後者または併用で治療します。3か月程度調子がよければ、治療のステップダウンを検討します。

●環境の整備

寝室は毎日掃除し、加湿器などで室内の湿度が適正に保たれるようにしましょう。絨毯とぬいぐるみをかたづけ、寝具のダニ退治には布団専用の掃除機が有用です。



●咳喘息とは

風邪の後咳が2〜3週間以上続くもので、痰を伴わず、喘鳴や呼吸困難がありません。のどのイガイガ感を伴うこともあります。布団に入って身体が温まると咳が出やすく、夜間や早朝に多いため、夜眠れない人もいます。風邪、タバコの煙、冷気、会話、運動などが増悪因子となります。気道過敏性の関連した喘息の軽症型または前段階と考えられ、喘息に準じた治療を行います。

●おわりに

急性期の喘息発作を治すだけでなく、無症状の状態を長期間維持し、成人の喘息に移行しないように、慢性疾患として長期管理をしていくことが大切です。親御さんが「がんばったね」「よくなってきたね」とほめてあげると、免疫力がアップして、快方に向かうようになります。笑顔で寄り添ってあげるようにしましょう。



野村 真二院長

平成22年9月に小児科開業、平成23年4月に病児保育室を開設。未熟児新生児医療の経験を生かして、心をこめて診療、子育て支援を行っています。

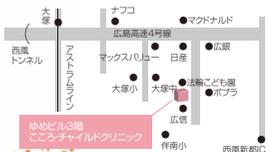


こころ・チャイルド・クリニック
Cocoro child clinic
4階の病児保育室ちゅんちゅんもご利用下さい
お問い合わせはtel.082-848-6619まで



DATA 広島市安佐南区伴南1丁目5-18-8-301 西風新都ゆめビル
tel.082-849-5519

ACCESS 広電バス「こころ産業団地」「こころ西公園」行き「こころ入り口」下車



●診療日・時間

月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	○	△

14:00~15:00に乳児健診、予防接種を行っています。
△17:00まで 【休診日】日曜・祝日

